



安曇野屋敷林

サポーター通信

発行日/2015年3月31日

編集・発行/屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト

連絡先:安曇野ブランド担当 ☎0263-82-3131

<http://keikan-azumino.net>

第13号

「安曇野屋敷林フォーラム2015」のご報告

リーダー 場々洋介



安曇野もようやく暖かくなり、春めいた季節となりました。今年も雪が昨年と比べて少ないのですが、北アルプスでは数10年ぶりの大雪だそうです。

『安曇野屋敷林フォーラム2015』が3月21日に穂高交流学習センター みらい で、開催されました。当日は北アルプスが美しい日でした。今回は、基調講演に砺波市教育委員会の学芸員が『砺波平野の景観は未来への文化財か』というテーマで講演されました。砺波は散村として、屋敷林（砺波ではカイニョと言います）野原大輔さんの講演の内容は、砺波の誇る自慢（屋敷林、米、水、チューリップ、東建の民家等）そして、いかに情報発信の大切さなどが話されました。

第2部のパネルディスカッションに先立ち、リーダーの場々が「屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト」の会の歩みや、屋敷林所有者と一般の方々からいただいたアンケートの結果を発表しました。また武蔵野市の緑のまち推進課長の荻野芳明さんは市の緑化の取り組みについての発表でした。

パネルディスカッションは、コーディネーターとして宮崎さんが。パネリストとして、屋敷林所有者の唐澤廣實さん、市文化課の山下泰永さん、武蔵野市の荻野芳明さん、柏樹直樹さん（砺波カイニョ倶楽部）、そしてリーダーの場々で行われました。

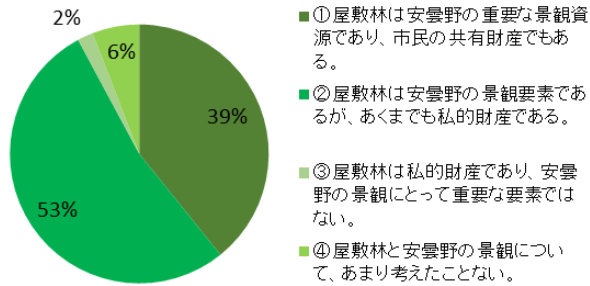
当日の参加者は約70名でした。今回のフォーラムは、第1回目の「全国屋敷林サミット in 安曇野」と同じ砺波、武蔵野、安曇野のメンバーでのディスカッションとなりました。



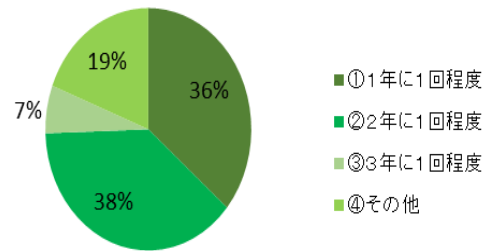
日本で一番、屋敷林で有名な砺波。市内に税金を投じて、積極的に緑被率をアップし、25%ほどにまでに向上した武蔵野市。場所こそ違いますが、同じDNAを持つ仲間であることを再確認しました。「屋敷林は市民の共有財産である」ことを再確認した次第です。

野原さんたちから懇親会の時、大変刺激のお話をいただきました。それは、いつも見ていたものでも、特に当たり前に見ているものが、視点を変えると全くすごいものであることを発見。「重要文化財、松尾寺ですが、この寺は室町時代に建築されたもので、アプローチの土手も石段も、手摺を除けばその時代の人々が見た風景も全く同じです。」その後改めて松尾寺を訪ねて再確認しました。

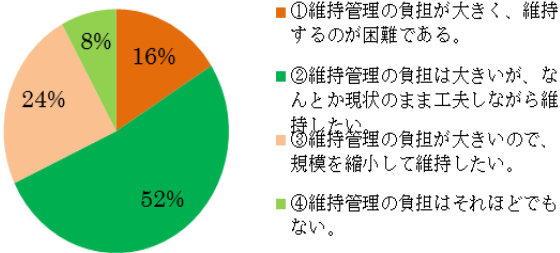
Q1)屋敷林と安曇野の景観について、どのように考えていますか？(複数回答あり)



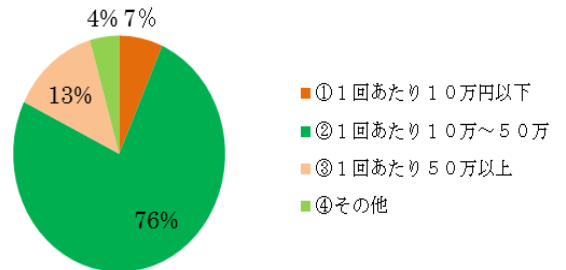
Q5)あなたの所有する屋敷林の剪定等は、どのような期間で行っていますか？



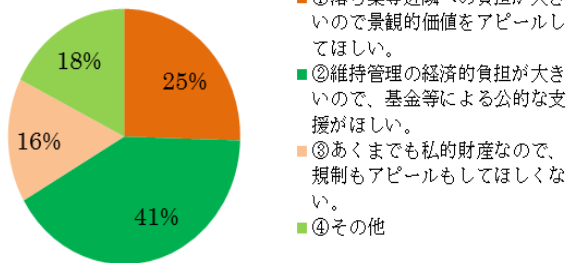
Q2)屋敷林の維持管理の負担はどうか？



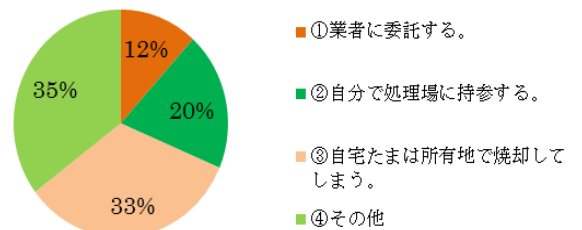
Q6) 上記の費用を教えてください



Q3)今後屋敷林を維持するために望むことはなんですか？



Q7)剪定の際、発生した枝葉等の処分はどうしていますか？



Q4)あなたの所有する屋敷林や民家等について、5年前との変化をお伺いします

